

J-SIP

Japan Society for Intellectual Production

CONTENTS

1. [特集]

産学連携学会第16回大会とその開催地、山口
産学連携学会第16回実行委員会

2. [TOPIC]

TOPIC 1 / 産学連携学会第15回大会(とちぎ大会)を開催
産学連携学会第15回実行委員会委員長 池田 宰(宇都宮大学)

TOPIC 2 / 平成29年度秋季シンポジウム
「医療イノベーション創出に向けて、産学官連携の在り方を事例から考える」を開催
産学連携学会 副会長 飯田 香緒里(東京医科歯科大学)

TOPIC 3 / 東北・北関東支部 東日本リエゾンカンファレンスを開催
産学連携学会東北・北関東支部 代表 内山 大史(弘前大学)

TOPIC 4 / 関西・中四国支部第9回研究・事例発表会を開催
産学連携学会関西・中四国支部 代表 秋丸 國廣(愛媛大学)

3. 会告 / 諸報・ご案内

産学連携学会第16回大会とその

16th Annual Meeting of Japan Society for Intellectual Production

大会の概要

産学連携学会第16回大会は、来る6月14日(木)15日(金)の2日間にわたり山口県山口市で開催されます。一般講演とポスターセッションでは、産学連携に関わる多様な参加者が一堂に会し情報交換と議論を行います。また、「社会・地域への貢献」に加えて「戦略指向の人材育成」「標準化人材育成」などに焦点を当てた特別講演・シンポジウム・オーガナイズドセッションも設定しています。

エントリー方法をはじめ詳細につきましては、学会ホームページ(<http://j-sip.org/>)もしくは大会事務局(sang2018@yamaguchi-u.ac.jp)までお問い合わせください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

特別講演

「事業戦略人材の育成(仮題)」

独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 三木 俊克 氏

シンポジウム

「改めて戦略指向の人材育成を考える」(仮題)

人材育成は、あらゆる組織で永遠のテーマであることはいままでもない。事業環境、開発環境が急速に変化する時代の中で、人材育成の内容と到達目標について“不易流行”パターンによる改良に止まるのか“劇的”対応があり得るのか現場感覚で再検討します。企業あるいは大学現場で人材育成に携わっているパネリストとともに、参加者と一緒に過去から現在までの総括およびこれから何をすべきか議論いたします。

オーガナイズドセッション

○「知財創造・戦略人材の育成」(仮題)

○その他に、数件程度のオーガナイズドセッションを予定しています。

大会までのスケジュール

2018年4月 6日(金)	大会参加申込および送金締切
2018年4月 6日(金)	情報交換会申込および送金締切
2018年4月 6日(金)	一般講演・ポスターセッション申込締め切り
2018年4月 16日(月)	一般講演発表原稿要旨提出締切
2018年6月14日(木)~15日(金)	産学連携学会第16回大会

[開催日]

2018年6月14日(木)、15日(金) 2日間
※6月14日は10時から開会行事開催、
18時から情報交換会を開催します。

[会場]

主会場/山口県教育会館
(〒753-0072 山口県山口市大手町2-18)
副会場/山口県社会福祉会館
(〒753-0072 山口県山口市大手町9-6)

[発表申込期限]

2018年4月6日(金)

[大会運営]

大会長/ 岡 正朗
山口大学長
実行委員長/ 堀 憲次
山口大学 理事・副学長

[大会事務局]

産学連携学会第16回大会実行委員会
(山口大学知的財産センター)
事務局/ 木村友久 李 鎔環
〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1
TEL.0836-85-9942
FAX.0836-85-9967
E-mail sang2018@yamaguchi-u.ac.jp

※お詫びと訂正
ファーストサーキュラーでお伝えした連絡用メールアドレス
sangaku2018@~ を sang2018@~ に訂正しています。

開催地、山口

産学連携学会第16回大会実行委員会

山口県および山口市はこんなところです。山の幸、海の幸の宝庫です。

山口県

山口県は本州の最西端に位置しており、北部に日本海・南部に瀬戸内海を擁し長い海岸線は地域により異なる風景を見せています。海の幸、山の幸に恵まれるとともに、源氏と平氏が戦った「壇ノ浦の戦場」、大内氏、毛利氏、明治維新以降の近代化遺産など、歴史浪漫を巡る旅を満喫することができます。

山口市

山口市は、山口県のほぼ中央に位置する人口約20万人弱の都市です。瑠璃光寺五重の塔(国宝)、常栄寺雪舟庭園、萩藩主毛利家墓所(香山墓所・国指定史跡)等の歴史的資産が集積されています。また、サビエル記念聖堂もあり、毎年12月はクリスマス市としてのイベントも行われます。会場は湯田温泉で有名なエリアにあります。



瑠璃光寺・五重の塔



防府天満宮



松下村塾(萩)



菊屋家住宅(萩)



反射炉(萩)

山口大学の紹介

山口大学は、人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、工学部、農学部、共同獣医学部、国際総合科学部の9学部と、大学院、附属施設で構成されています。大学の起源は、長州藩士「上田鳳陽」によって、1815年に創設された私塾「山口講堂」からはじまり、明治・大正期の学制を経て、1949年に、地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。2015年には、山口講堂の創設から創基200周年を迎えました。



山口大学正門



大学構内に設置の長州五傑記念碑

産学連携学会第15回大会(とちぎ大会)を開催

産学連携学会第15回大会実行委員会 委員長 池田 幸
(国立大学法人宇都宮大学理事・副学長)

平成29年6月15日(木)・16日(金)の両日、栃木県宇都宮市において産学連携学会第15回大会を開催した。参加者は488名であり、過去最多となった。発表は、一般講演114件、オーガナイズドセッション5セッション19件、そしてポスターセッション22件の総計155件であった。

大会初日の午前中はそれぞれの専門セッションに分かれた議論が行われ、午後から開会式が行われた。

開会式では、弊職による開会の辞、小野浩幸産学連携学会会長・山形大学教授および大会長である宇都宮大学長石田朋靖の挨拶に続き、栃木県知事福田富一氏、文部科学省大学技術移転推進室長村瀬剛太氏、経済産業省産業技術政策課長渡邊政嘉氏および農林水産省産学連携室長野島昌浩氏から来賓挨拶をいただいた。

引き続き花王株式会社代表取締役社長執行役員澤田道隆氏から「『つなげるモノづくり』によるイノベーション創造」と題する特別講演をいただいた。

その後、「地域の強みを生かす技術の創造と発信～光学技術を事例として」と題するシンポジウムを行った。当該シンポジウムではまず宇都宮大学谷田貝豊彦氏および山形大学城戸淳二氏によるゲストスピーチの後、お二人に加えて、キヤノン浜野博之氏、栃木県産業技術センター平出孝夫氏の4名のパネリスト、前述の澤田道隆氏、村瀬剛太氏、渡邊政嘉氏および野島昌浩氏の4名のコメントーターならびに池田幸をモデレーターとして、パネル討論が行われた。

翌16日は15日の午前と同じようにそれぞれの専門セッションに分かれた議論が行われた。また、韓国産学協力学会との連携のもと、第3回韓国ワークショップを「産学連携による実践的産業人材教育の日韓比較」と題して併催した。それぞれの学会のWoo-Seung Kim名誉会長および木村雅和副会長による基調講演の後、両学会の関係者によるパネルディスカッションを行い、両国の人材育成について議論を行った。

一般講演とオーガナイズドセッションの全31に及んだ口頭発表セッションでは、「産学官連携プロジェクト」および「産学連携論」が各々6セッションおよび4セッションとセッション件数が多く、これは産学連携の先進事例や新たな取り組みの考察など連携プロジェクトへの関心の高さを反映しているものと思われる。オーガナイズドセッション5セッションはいずれも多くの聴講者が参加したが、中でも「AMED企画セッション『医療機器イノベーション促進と知的財産』」には、70名以上が参加し、医工連携に関して、白熱した議論が行われた。また、開催地である栃木県内からの発表が18件あり、それらが全口頭発表件数133件の1割以上を占めるに至ったことも特筆すべき点として挙げられる。

ポスターセッションでは15日のコアタイムには最も多い時で約35名の聴講者が参加した。発表22件のうち、11件は栃木県内からの発表であり、県内からの積極性が目立った。

本学会はその目的として、「産学連携学の発展」と「産学連携活動従事者の資質向上」に加え、「地域での産学連携を通じた産業振興の支援」をも掲げている。今大会は全参加者488名のうち、栃木県内からは198名と多く、本目的を広く栃木県に周知できたことにより、栃木県内の産学連携推進に大きなインパクトを与えることができたと考えられる。

また、全国の地方・地域において産学官連携を通して産業・文化の振興に取り組む関係者にとっても、また中央に在り地方の大学と地方創生を考える立場の関係者にとっても有意義な大会になったものと考えている。

産学連携学会第15回大会を価値あるものとし、盛会のうちに終えることができた。これも関係府省をはじめ全国・地域の諸機関からの多大なご支援の賜である。皆様に紙面を借りて心から感謝を申し上げる。



花王株式会社社長澤田道隆氏による特別講演



シンポジウム



講演会場

平成29年度秋季シンポジウム 「医療イノベーション創出に向けて産学官連携の在り方を事例から考える」

産学連携学会 副会長・理事 飯田 香緒里(東京医科歯科大学 教授)

産学連携学会と東京医科歯科大学が共同主催した平成29年度秋季シンポジウムが平成29年11月7日、東京医科歯科大学M&Dタワーで開催された。本シンポジウムは、我が国の成長戦略の重要な柱として標榜される「医療イノベーション」をテーマに取上げ、当日は、産学官から100名の方々に参加頂いた。プログラムは以下の通り。

木村会長から冒頭に医療系産学連携の困難性に触れ、本会は成功事例、産学連携の推進に向けたモデル・方策を共有することが趣旨として述べられた。

基調講演1では、「肝繊維化診断システム」の実用化について、産総研の成松氏及びシスメックスの高浜氏から、開発に取組んだ経緯、連携により測定時間大幅短縮、通院での検査を実現したこと、ウイルス慢性肝炎治療における患者負担軽減が期待されることや、成松氏のリーダーシップ、高度な専門的研究体制に基づく明確な役割分担を核にした産学連携体制と実用化への熱意が成功の要因として紹介された。

基調講演2では、東京慈恵会医科大学の村山氏から、動脈瘤治療のための塞栓コイル開発やソフトウェアとして初の保険適用を受けた医療用コミュニケーションアプリケーションの実用化に至る経緯と、臨床現場発医療機器開発の課題やポイント等が紹介された。

大型連携事例としては、弘前大学の認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析を融合した疾患予兆発見予防事業や、JSR・慶應義塾大学との連携、ヤマハ株式会社・東京医科歯科大学との包括連携について、行政からは、イノベーションに関連最新政策について紹介がなされた。

事例紹介を通じ、アイデア創出を促す環境、促進する体制や仕組みや工夫といったエコシステムに触れることができた。本会が、イノベーション創出の在り方や方策を見出す契機となり、活性化に繋がれば幸いである。なお、本会に対しては、多くの方々からアンケートの回答を頂いた。今後の活動に反映していきたい。

プログラム

開会挨拶	東京医科歯科大学 理事・副学長(産学官連携・研究担当)	渡辺 守
趣旨説明	産学連携学会長(静岡大学 理事)	木村 雅和
来賓挨拶	経済産業省 技術振興・大学連携推進課長	松岡 建志
基調講演1	産業技術総合研究所創薬基盤研究部門・糖鎖技術研究G・招聘研究員 シスメックス株式会社第一エンジニアリング本部本部長 「世界初・糖鎖を使った肝繊維化診断システムの実用化 —糖鎖基盤研究から診断薬商品化までの道程—」 【第14回産学官連携功労者表彰経済産業大臣賞受賞】	成松 久 高浜 洋一
特別講演	弘前大学 教授・副理事(研究担当)/COI研究推進機構・戦略統括 「短命県返上から世界人類の健康づくりへ(文部科学省COI事業)」	村下 公一
事例紹介1	慶應義塾大学医学部参事/経済産業省ヘルスケア産業研究官 「産学医連携の新しいモデルについて—JSR・慶應義塾大学」	仁賀 建夫
事例紹介2	ヤマハ株式会社 執行役IMC事業本部長 藤井茂樹 「音響・音楽と医学の産学パートナーシップ」	
政策紹介1	経済産業省産業技術環境局技術振興・大学連携推進課大学連携室長 「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン・ファクトブック」	飯村 亜希子
政策紹介2	文部科学省科学技術・学術政策局産学連携・地域支援課 大学技術移転推進室長	村瀬 剛太
政策紹介3	「オープンイノベーションの促進に向けた取り組み」 日本医療研究開発機構 知的財産部長 「AMED知的財産部による導出支援施策について」	岩谷 一臣
基調講演2	東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座主任教授 「日本発の医療機器開発の現場と将来展望」	村山 雄一
総括	東京医科歯科大学 教授・産学連携学会副会長	飯田 香緒里



シンポジウム会場



木村会長によるシンポジウム趣旨説明



基礎講演

「地方における産学官金連携」をテーマに、東日本リエゾンカンファレンス2017in弘前を開催

産学連携学会東北・北関東支部 代表 内山 大史(弘前大学)

開催概要

東北・北関東支部および北海道支部は、第4回目となる東日本リエゾンカンファレンスを平成29年9月14、15日の2日間にわたり青森県弘前市で開催した。今回は初めて両支部共催とし、さらに地域活性学会東北支部、日本地域政策学会東北支部、および平成17年1月に発足し地域の産学官連携の“場”を提供してきた“ひろさき産学官連携フォーラム”との共催で開催した。初日は弘前市中心市街地に位置する“土手町コミュニケーションプラザ”において、「地方における産学官金連携」をテーマに、3件の講演を行い、2日目は会場を弘前大学内の“コラボ弘大”に移し、共催団体会員から8件の研究・事例発表が行われた。

講演会

地方における産学官金連携の事例としてまず、株式会社津軽バイオマスエネルギー代表取締役の奈良進氏から「困ったときの解決策私の経験から ためらいをすてて・・・」と題して講演いただいた。奈良氏は津軽地域某市役所の要職を経験、定年退職されたのち、会社を設立された。現在の国等プロジェクト参画・進捗状況等についてお話しいただく中で、公務員時代、地域振興戦略を検討していた時に、弘前大学の地域共同研究センターを訪問したことがきっかけで、学内外の新たなネットワークを築くことができたと述懐された。続いて文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラムのプロジェクトディレクターの阿部馨氏から「弘前大学から始まったプロテオグリカン産業化の奇跡と展望」と題して講演いただいた。プロテオグリカン関連事業は文部科学省都市エリア事業時代から通算して10年以上、この地域で継続して進められているプロジェクトであり、全国のイノベーション関連事業個別評価においても上位の評価をいただいた事業である。プロジェクト初期に大学シーズとして育てたものを、地域産業界を巻き込み地域の取組みとしていかに発展させていったかについて、データを交えながらご説明いただいた。3番目は山形大学教授の小野浩幸氏から「地域イノベーションシステムとしての産学連携プラットフォームの試み」と題し、ご講演いただいた。小野氏は、地域金融と地域経済に関し、“人口と経済規模が縮小に向かう「減少社会」においてWin-Winを成立させる新しいルールが必要”とし、平成19年来継続して取り組む、学と金の連携の仕組みづくりとその実績についてご紹介いただいた。

島根から北海道に渡る広い範囲からのご参加をいただき、当初主催者が想定した参加者を上回る80名の方々にご参加いただいた。引き続き行われた情報交換会では、共催団体である地域活性学会東北支部長の小野寺純治氏(岩手大学)からご挨拶、日本地域政策学会東北支部長の渡部芳栄氏(岩手県立大学)から乾杯のご発声をいただいた後、県内外の産学官金メンバーによる活発な交流の場となった。

研究事例発表会

産学連携学会員ほか共催団体会員から8件の発表があり、50名の参加者を得た。前半の発表は「青森県の課題と特徴を踏まえた弘前大学の雇用に関する取り組み」工藤祐介氏(弘前大学)ら、「多能工型研究支援人材育成コンソーシアムにおける職能と業績の相関について」伊藤正実氏(群馬大学)など“人材育成、教育”に関連するテーマとなり、後半は「地域金融機関の事業創出支援活動に関する研究」三條大輔氏(山形大学)ら、「ネットピックスプラス～秋田・岩手・青森の北東北三銀行三大学連携でつなぐ産学官金の取り組みについて～」山科則之氏(弘前大学)ら、「全国横断ネットワークによるリエゾン～金融、CVC、アクセラレーターの役割～」荒磯恒久氏など“経済、金融”に関連するテーマとなった。

会場は前日の情報交換会からの流れを引き継ぎ、活発な質疑応答と意見交換が行われ、参加者にとって有意義な2日間となった。



講演会



研究事例発表会

関西・中四国支部「第9回研究・事例発表会」を開催

産学連携学会関西・中四国支部 代表 秋丸 國廣(愛媛大学)

関西・中四国支部では、地域が共有する課題を解決し産学連携の促進に向けて、産学連携の事例や研究成果について情報交換を行い、かつ、地域内の会員の交流を深めるために、当該エリアの方々が産学連携の事例や様々な研究について発表できるよう「研究・事例発表会」を開催しています。

平成29年度は、徳島大学の協力を得て、平成29年11月29日(水)、30日(木)の2日間に渡って、徳島大学産学官連携プラザで第9回研究・事例発表会を開催しました。

今回の発表会では34名の方が参加され、18件の研究や事例などの発表が行われました。当該の支部エリア内だけではなく、北海道や富山など遠くからの発表や参加もあり、関心の深さが窺われました。各発表での質疑は非常に活発で、参加者の情報交換や交流が促進されました。

今回の発表会での18件の発表を分類すると「研究」が5件、「事例」が13件でした。内容別でみると、産学連携活動の具体的な事例が7件、産学連携に関する各種分析が4件、人材育成や教育関係が3件、知財やリスクマネジメント関連が4件ありました。従来通り「事例」の発表が大きな割合を占め、企業や大学での産学連携の具体的事例の発表が多く見られました。発表者の所属では、大学関係者が16件と大半を占めました。様々な機関で産学連携が活発に進んでおり、その内容も幅広いものであることが分かりました。

昨年に引き続き、今回の発表では北見工業大学の現役の大学生から2件の発表もあり、産学連携に関する分析の発表に会場からも多くの質問や意見があり、学生の発表に盛り上がりを見せました。

発表会後の情報交換会には28名と多くの方の参加があり、発表会では足らなかった議論の続きが熱心に行われました。

予稿集も含め発表会の詳細は、関西・中四国支部のHPで公開していますので、是非ご覧下さい。

<http://www.sgrk.shimane-u.ac.jp/j-sip-B150/meeting/9th-2017/>

今回の発表会も皆様方のおかげをもちまして、当支部の発表会を成功裏に終了することができました。心からお礼申し上げます。

次回は、平成30年12月頃に開催を予定しています。次回は発表会も10回目を迎えることから、発表会に合わせて特別講演なども企画したいと考えています。次回も多数の皆様が集われますことを期待しています。

文責：北村 寿宏(島根大学)



発表会



支部代表挨拶



情報交換会

会告

産学連携学会が主催、共催等で開催したイベントや産学官連携活動事業についてご紹介します。

諸報

開催日	イベント名	開催地
2017年 9月 2日(土)	主催 リサーチアドミニストレーション(RA)研究会 第7回研究会	東京
13日(水)	主催 第26回お茶の水コラボレーションセミナー	東京
14日(木)・15日(金)	主催 第4回産学連携学会東日本リエゾンカンファレンス in 弘前 2017 (東北・北関東支部、北海道支部共催)	弘前
10月11日(水)	主催 東北・北関東支部 産学官金共創セミナー	仙台
26日(木)・27日(金)	主催 韓日産学連携カンファレンス in 濟州島	濟州島
11月 7日(火)	主催 平成29年度産学連携学会秋季シンポジウム	東京
29日(水)・30日(木)	主催 関西・中四国支部 第9回研究・事例発表会	徳島
12月14日(木)	主催 第27回お茶の水コラボレーションセミナー	東京
2018年 2月14日(水)	主催 第28回お茶の水コラボレーションセミナー	東京
26日(月)	主催 北海道支部 産学官交流会「イノベーション・ダイアログ」	札幌
2月27日(火)	後援 輸出管理 DAY for ACADEMIA2018	東京
27日(火)	主催 地域社会実装研究会 第1回定例研究会(視察研修)(関西・中四国支部共催)	札幌
3月 8日(木)	共催 北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウム (学金連携システム研究会、北海道支部共催)	北見
10日(土)	主催 リサーチアドミニストレーション(RA)研究会 第8回研究会	東京
13日(火)	主催 九州支部 平成 29年度産学連携ネットワーク会議	熊本

ご案内

開催日	イベント名	開催地
6月14日(土)・15日(木)	主催 産学連携学会第16回大会	山口

発行日 2018年3月
発行所 〒182-0021 東京都調布ヶ丘2-32-3ジュネス201号
(株)キャンパスクリエイト調布ランチ内
特定非営利活動法人 産学連携学会 事務局
発行者 木村 雅和 編集主幹 川崎 一正
編集 内島 典子・永富 太一・馬場 大輔
URL <http://www.j-sip.org/>

TEL.080-4203-5165

FAX.042-490-5727

E-mail j-sangaku@j-sip.org

編集後記

産学連携学会の支部活動は年々活発化しています。今年で支部設立10年を迎える関西・中四国支部では、設立当初から進めてきている研究・事例発表会の開催が第10回目を迎えます。今回のトピックで紹介もありましたが、研究・事例発表会への参加・発表は年々拡大し、その参加者の層は、関西・中四国地方にとどまらず、富山や北海道にまで広がっています。私自身も参加し、参加者の産学官連携への熱意やその活動の広さなど、自身の活動に活かすことのできる情報を多く得てきました。6月には山口市にて産学連携学会の年次大会が開催されます。全国で繰り広げられる産学官連携活動の関係者が一堂に会する場として、そしてそれぞれの従事者が活動拠点での産学官連携活動に活かす情報を収集する場として、多くの方にご参加をいただけましたらと思います。

編集担当 内島 典子(北見工業大学)



プロメテウスの火

人類は火とそして知恵を授かり、しかし未来を知る能力を失った。代わりに得たのは、希望であった。今、私たちは破壊と創造の火を燃やす。

お知らせ

【産学官連携活動写真募集】

産学連携学会では、みなさまからの産学官連携に関するお写真を募集しています。ニュースレターで、ご紹介いたします。産学官連携による人材育成や開発商品、セミナー、イベントなどの活動情報を広く発信しませんか。ニュースレターでの掲載をご希望の方は産学連携学会事務局(j-sangaku@j-sip.org)までできるだけ高解像度のお写真とともに200字以内のキャプションを添えてご連絡ください。みなさまからのご連絡、お待ちしております。

【産学連携学会のメールマガジンでの情報発信】

産学連携学会ではメールニュースを配信し、「イベントのお知らせや公募情報等、産学連携に関する情報をお伝えしています。会員のみなさまへの情報の配信をご希望の方は、news@j-sip.orgあるいは産学連携学会事務局(j-sangaku@j-sip.org)まで情報をお寄せください。

バックナンバー：http://j-sip.org/mail_news.htm